

平成22年11月12日

財団法人 日独協会

平成22年度(10月12日まで)事業報告

昨年11月4日に公益法人移行認定申請を内閣府に提出以来、内閣府担当官の助言、指導のもと申請内容の訂正、追加等繰り返し、内閣府内部検討会、諮問委員会、答申委員会等を経て、10月7日に認定書を受領し、10月13日に法務局に登記申請を完了し、正式に公益財団法人日独協会への改称が実現した。登記登録の完了は10月21日となった。認定取得と同時並行的に、コスト削減、公益へのサービス充実を目的として事務所スペースの拡大を図るべく本年7月より進めてきた事務所の移転計画も順調に進み、本年12月初めにJR信濃町駅から徒歩5分のところへの移転が実現する見通しとなった。公益財団法人として出発せんと意図し、それが今や実現した訳だが、今期は今まで以上に公益性を重視、即ち、不特定多数の人々を対象にすることに注力しながら、事業の実施と環境の整備に努めてきた。

(1) 日独両国国民相互理解増進のための事業

シュタムティッシュ

通常年10回開催であり今年は、4月、5月、6月、7月、8月の5回開催。5月、6月はドイツ語圏文化セミナーとかねて開催。特に8月に開催された駿河台大学教授・明石先生による「ドイツ・サッカーの強さの秘密」は教授のサッカーに対する思い、更に彼が持つ個人的な経験、人脈に裏付けられた話題豊富な内容と、有名選手との写真、サイン入り写真及びTシャツなど集まった人がその世界に引きずり込まれるような魅力ある催し物であって、大変な好評を博し今後のシュタムティッシュへの再登場が望まれる。

JGシュタムティッシュ

今年は8月を除く毎月開催され10月までに5回の実績となった。中でも6月18日新宿のビアホール「Zum BIERHOF」でドイツビールやドイツ料理を食べながらFIFAワールドカップのドイツーセルビア戦を観戦し、ドイツ人はもちろん日本人もドイツチームの勝利を確信しながらともに応援し、まさに交流が最高潮に達する素晴らしい企画であった。

最新のドイツのニュースを楽しむ会 独逸塾

22年度前半で扱った物の中で興味を引いたものは「トルコのEU加盟は?」、「イランに対する経済制裁とそれに対する中国の方針変更」等であった。7/8月は休みとなり9月末より従来と同じ体制で再度スタートすることになった。

日独交流150周年記念行事準備

2011年に「日独交流150周年記念行事」が種々計画されているが、これにむけての準備を着々と進めてきている。奈良で開かれるパートナー会議、同時開催の連合総会の場所及び準備状況のチェック、コスト削減の打ち合わせのため奈良日独協会を訪れ種々検討した結果かなりのコスト削減が可能となった。パートナー会議の冒頭にドイツ側より日本側への菩提樹の贈呈式、その後の植樹祭実施の計画も実現に向かってドイツ大使館との打ち合わせも順調に進んでいる。上智大学との共催を予定しているシンポジウムに関する河崎教授との打ち合わせも進み、来年5月28日(第一希望)開催をめざしている。記念行事のスポンサー企業である **Boehringer** 社との寄付金に関する交渉も順調に進み25,000ユーロ(約280万円)の寄付が内定した。日本企業よりの寄付に関しては事務局で資料を整え古森会長に本年末にかけて各企業に声をかけていただく段取りとなっている。パワーポイント活用による **Brückenbauer** を築いた人へのアクセスの準備も最終段階をむかえている。

ドイツ政府機関との交流、共同作業

在日のドイツ連邦共和国大使館、**Goethe Institut**、ドイツ学術交流会(DAAD)、ドイツ東洋文化研究所、ドイツ商工会議所、ドイツ観光局等との交流、特にドイツ大使館との交流及び共同作業、大使館からの諸情報の各地日独協会への伝達等は重要な役割としてこれに努めてきた。ドイツ大使館の種々催し物への積極的な参加、シュタンツェル大使へのインタビュー実施、在日ドイツ商工会議所とのクリスマスディナーの共催はその具体例の一端である。

(2) 文化講演会、セミナー

「ベルリン演劇修行～日本人演出家のドイツ演劇漬け生活～」、「ドイツリートの勉強会」、「ドイツ料理教室」、「日本発見シリーズ」、「ドイツ統一後20年」、「ベルリンの建物と歴史をめぐる～秘められた物語～」等種々企画、実施したが川口マーン恵美氏の「ベルリンの建物と歴史をめぐる」は好評であり、今後も川口氏には講演、セミナー等に積極的に登場をお願いする意向である。**Riesner** 先生は東西ドイツを語れる面白い存在であり、ドイツ語の授業とともにこれからも期待したい。

(3) ホームページ、メーリングニュース、機関誌「Die Brücke かけ橋」の発行

メーリングニュースは従来当協会の情報に限られていたものを、ドイツに係る協会外のイベント情報についても掲載し、幅を広げた。機関紙の情報発信機能は有意義であり、今年度は読者が見やすい、理解しやすいという処に力点を置き、レイアウトもさし絵を多くするなど工夫を凝らした。更に一部読者より内容が柔らかすぎるといふ指摘も受け、「ドイツの政局よもやま話」等の新連載も取り入れた。更に上記セミナー等で好評を得た企画については、幅広く読者に親しんでもらおうという意図で掲載に努めた。

(4) ドイツ語講座

開設講座については従来通りの講座に加え、特に夏季以降次のようなところに力点を置いて展開した。

- 1) 金子先生による新講座「初級強化トレーニング」を開設。目的は初級と中級の間にいる生徒が力を付け中級に進めるように後押しをする。
- 2) エンリコ先生による新講座「初級会話」をスペイン協会会議室で開催。当協会では他クラスが開設中。将来は新事務所で同時開設。
- 3) お金をかけず、地味に宣伝活動。ツイッターの活用等で募集の補助活動を展開。以上により結果的に昨年に比べ受講人数及び収入も若干増加した。

(5) その他

- * サマーフェスト（今回は大使館主催は変わらぬが費用は当協会が主に負担） 9/21
- * ワイン塾（藤本氏が亡くなられたので追悼の会を開催。6/30）今後は三木元大使を中心に3ヶ月に一回開催予定
- * バッハのマタイ受難曲研究会